

パブリック・サービス研究分科会 2009年6月定例会 「主題書誌作成と蔵書評価」研究グループ報告書	
日時	2009年6月8日(月)
場所	和光大学附属梅根記念図書・情報館
記録	瀬戸山(学習院大学)
参加者	伊東(女子栄養大学)、清水(和光大学)、瀬戸山

0. 今後の方針

1) 方法論の考察

本グループが採用している蔵書評価方法は、「チェックリスト法」といい、蔵書評価手法として、ある程度確立している手法である。この他に「コンペクタス」、「利用者中心評価法」、「利用可能性調査」等の蔵書評価方法が存在する。それぞれの概要を記述し、なぜ本グループにて「チェックリスト法」を採用したのか(例:月例会を基本とした研究体制にともなう時間的制約からチェックリスト方を選択した等々)を記述する。さらに、チェックリストの作成、チェックリストを用いた評価の手順を振り返り、問題点を列挙し、改善策等を考察する。

2) リストを用いた評価

清水さんが集計を行う。導き出された集計結果から分析を行い、蔵書評価を行う。評価から得られた有意義な結論、評価を行った有意義な経験をまとめる。

1. 研究スケジュールについて

6月定例会時点で、3人分のリストが揃ったので、便宜的に先行して集計作業を開始する。集計作業が終了した時点で、各メンバーに連絡がある。

7月定例会では集計の分析を行うが、どのように行うかは、集計の進捗状況により計画する。

4月末迄:少なくとも1冊の引用文献をリスト化

6月定例会:評価作業開始

7月定例会:評価結果分析・方法論の考察

8月合宿:研究終了、執筆開始

9月定例会:執筆上の質問、執筆継続

10月定例会:執筆終了、発表準備

11月定例会:発表リハーサル、発表資料修正

12月定例会:最終リハーサル、微調整

12月?日:最終発表

3. 次回定例会までに行うこと

- ・方法論の考察

現段階では、考察の質より量を重視する方針とする。

(切り口の例)

蔵書評価方法としての妥当性、その他の蔵書評価方法との比較、

自館で実施する場合のシミュレーション (どのような制約があるか等) . . .

蔵書評価に使えるツールの提案 (WebcatPlus、Access、Excel、、、) etc...

- ・リストの作成

作成が完了次第、メンバー全員へ添付ファイルとともに連絡

- ・リストの集計

以上